

貯法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 22000AMX02218000

販売開始 1999年8月

含嗽剤

ポビドンヨード含嗽液

ポビドンヨードガーグル7% 「日医工」

Povidone-Iodine Gargle Solution

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	ポビドンヨードガーグル7%「日医工」
有効成分	100mL中 ポビドンヨード 7g (有効ヨウ素として 700mg)
添加剤	グリセリン、サッカリンナトリウム水和物、L-メントール、サリチル酸メチル、ハッカ油、エタノール

3.2 製剤の性状

販売名	ポビドンヨードガーグル7%「日医工」
剤形・性状	含嗽剤（液剤） 暗褐色の液で、特異なおいがある。 比重 d_4^{20} ：約1.0
pH	1.5～3.0

4. 効能又は効果

咽頭炎、扁桃炎、口内炎、抜歯創を含む口腔創傷の感染予防、口腔内の消毒

6. 用法及び用量

用時15～30倍（2～4mLを約60mLの水）に希釈し、1日数回含嗽する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 甲状腺機能に異常のある患者

血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック（0.1%未満）、アナフィラキシー（0.1%未満）

呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等があらわれることがある。

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症	—	発疹
口腔	口腔、咽頭の刺激感	口腔粘膜びらん、口中のあれ
消化器	悪心	—
その他	—	不快感

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 用時希釈し、希釈後は早めに使用すること。

14.1.2 抜歯後等の口腔創傷の場合、血餅の形成が阻害されると考えられる時期には、はげしい洗口を避けること。

14.1.3 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

ポビドンヨードは殺菌消毒用ヨードチンキ類剤であり、有効ヨウ素を10%程度含有する粉末である。持続性の殺菌、殺ウイルス作用があり、効力はヨードチンキに匹敵する。刺激性や組織障害性が低いため、創傷患者へ塗布しても比較的痛みが弱いため、広く用いられている¹⁾。

18.2 殺菌力試験

18.2.1 ポビドンヨードガーグル7%「日医工」の30倍希釈液の殺菌力は以下のとおりである²⁾。

菌株	処理時間			
	2.5分	5分	10分	15分
<i>E. coli</i> ATCC8739	—	—	—	—
<i>S. aureus</i> ATCC6538	—	—	—	—
<i>S. pyogenes</i> ATCC9027	—	—	—	—
<i>S. sanguis</i> ATCC10449	—	—	—	—
<i>P. gingivalis</i> HIIC2401	—	—	—	—
<i>C. albicans</i> ATCC10231	—	—	—	—

(—)：死滅した

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ポビドンヨード（Povidone-Iodine）

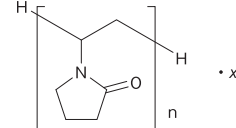
化学名：Poly[1-(2-oxopyrrolidin-1-yl)ethylene]iodine

分子式： $(C_5H_8NO)_n \cdot xI$

性状：暗赤褐色の粉末で、僅かに特異なおいがある。

水又はエタノール（99.5）に溶けやすい。

化学構造式：



20. 取扱い上の注意

外箱開封後は、直射日光を避けて保存すること。

22. 包装

30mL×50本 [ポリ容器]

250mL [ポリ容器]

23. 主要文献

1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店 2021；C5418-C5421

2) 社内資料：殺菌力試験

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日医工株式会社 お客様サポートセンター

〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

TEL (0120) 517-215

FAX (076) 442-8948

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

日医工株式会社
NICHIKO 富山市総曲輪1丁目6番21